

大分市歴史資料館

OITA CITY HISTORICAL MUSEUM

ニュース

vol.

111

2016.1.16

平成27年度テーマ展示Ⅲ

中世豊後府内の職人たち



会期

1月16日(土)～4月3日(日)

中世豊後府内の職人たち

会期：平成28年1月16日(土)～4月3日(日)

しちじゅういちばんしよくにんうたあわせ

今回のテーマ展示は、「七十一番職人歌合」や発掘調査の出土品などを通して、活気に満ちた中世豊後府内の職人の様子を紹介します。

第一章 都市と職人 - 七十一番職人歌合の世界 -

中世における「職人」という言葉は、現在使われているいわゆる手工業者としての職人のみならず、広くさまざまな職業の人々を含む意味で使われていました。これら中世の職人とその活動をうかがわせる資料に七十一番職人歌合があります。

七十一番職人歌合は、詠み人が142種の職人になりすまして、左右に分かれ71番284首を競い合った歌合で、職人の姿絵と日常会話や口上が画中詞として添えられています。明応9年(1500)の成立とされ、当時の手工業者・小売業者・僧侶・神職・芸能者・医師等の様々な職人が描かれています。

現在、政治、経済の中心であり、大勢の人々が集まる「都市」は、農業・林業・漁業を生活の基盤としない人々が住民の大半を占めています。具体的には、鉱業・建設業・製造業、販売・運送・飲食サービス・医療・僧侶・神職・芸能・その他サービス業に従事する人々であり、これらは七十一番職人歌合に描かれた中世の職人にも重なります。

中世の職人も、その活動の場を都市に求め集まっていた。七十一番職人歌合に描かれた職人は、中世都市で活動する人々であり、それはまさに中世「都市と職人」の世界とすることができます。



「七十一番職人歌合」



禪宗

鍋売り

鍛冶

金掘り

挿絵「職人絵尽」

第二章 出土遺物からみた中世豊後府内の職人

中世豊後府内は、大友氏が本拠とした5000軒の町屋が立ち並ぶ「都市」です。そしてこの大友氏の都市には様々な「職人」が住んでいたと考えられています。発掘調査の結果、これらを裏付けるかのように、そうした職人に関わる色々な遺物が出土しています。

出土遺物からみた中世豊後府内の職人では実際に遺跡から出土した遺物と、職人歌合を見ながら、中世豊後府内における職人とその活動を考証し紹介します。



硯石

硯【中世大友府内町跡】



一服一銭

茶釜【中世大友府内町跡】



足駄作

下駄【中世大友府内町跡】



医師

薬研【中世大友府内町跡】



鎖細工

筋兜【中世大友府内町跡】

第三章 当家年中作法日記にみる職人

「当家年中作法日記」は、大友氏第22代吉統が、常陸国水戸に幽閉中の文禄4年(1596)に、大友家で行われていた年中行事の内容を記した資料で「番匠」、「鍛冶」、「桶結御作」、「塗師御作」、「工御作」、「土器作」、「猿楽衆」等の職人名が登場しています。

これら当家年中作法日記にみる職人を、職人歌合、出土遺物、関連する館所蔵資料を織り交ぜ紹介します。



塗師御作

漆器碗【中世大友府内町跡】

漆を使った製品として漆器碗は、日常品から高級品まで広くさまざまな形で使用されました



土器作

かわらけ【大友氏館跡】
かわらけは、大友館で行われた儀式などで使われました



番匠

木の葉型(横挽)鋸【中世大友府内町跡】

鋸には、木目の方向に切る縦挽きと、直角に切る横挽きがあります

鍛冶

ふいご羽口・椀形鉄滓【中世大友府内町跡】

イエズス会日本報告集には、鍛冶がふいごと炭を持って修道院に仕事に来たとあります



犬をめぐる座談会

特別展会期中の11月8日(日)、別府大学学長の豊田寛三氏、大分東明高等学校教諭の長野浩典氏、きつき城下町資料館の細井雅希氏をお招きし、犬をめぐる座談会を開催しました。はじめに、長野氏より「日本人とイヌのながいつきあいー日本史のなかのイヌ」の演題で基調講演をしていただきました。本講演では、遺跡からの出土品や文献資料の記述を通して、縄文時代から現代に至る歴史の中で、日本人はそれぞれの時代で犬とどのように関わってきたかを説明されました。

その後の座談会では、パネリストの方々が専門とされている考古・歴史・民俗のそれぞれの分野から、大分における犬にまつわる事例を報告されました。最初に、本展覧会を企画した当館職員の中西より、市内の遺跡から出土した各時代の犬の資料が紹介がされました。特に中世大友府内町跡からは、埋葬された犬や他の動物の骨と一緒に捨てられていた犬、小さく可愛らしい土で作られた犬などが出土しており、さまざまな犬とのつき合いがあった状況についての説明がありました。次に豊田氏より、江戸時代の杵築城下町における犬の管理の在り方が紹介されました。藩は犬を大切に保護する一方で、衛生面・治安面からその数を規制していたことなどが述べられました。続いて、細井氏より民俗学の立場から犬への信仰についての説明がなされました。杵築の若宮八幡社に残る犬追物が描かれた絵馬は、武士の世界における犬への信仰が形になったものと語られました。また、犬はお産が軽く、さらに犬の子は良く育つことから、戌の日に安産祈願のお参りをするといった風習や、子どもの成長を願う意味で伏見人形や犬張り子などの玩具が庶民の間で親しまれたことが紹介されました。参加された方からも活発に質問が出されるなど、身近な動物である犬への関心の高さがうかがえました。さまざまな視点から語られた犬とのつきあいの歴史に、参加された55名の方々は大変興味深く聞き入っていました。



犬をめぐる座談会の様子

利用案内

■開館時間 9時から17時(入館は16時30分まで)
■休館日 月曜日 但し祝日の場合は開館
また第1月曜日は開館し、
翌火曜日が休館日
祝日の翌日 但し土・日曜の場合は開館
年末年始 12月28日～1月4日



■観覧料 大人200円(団体150円) 高校生100円(団体50円)
中学生以下 無料 ※団体は20名以上
※身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳
の交付を受けている方とその介護者は無料。
◎入館時に受付で手帳を提示してください。



■交通機関 ・JR久大本線 豊後国分駅下車 徒歩2分
・大分自動車道 大分I.C.・光吉I.C.よりともに約15分



ふれあい歴史体験講座

■定員 各回70名程度(先着順)
■時間 午前の部 9時30分～(約2時間)
午後の部 14時00分～(約2時間)



	実施日	内容	材料費	受付開始日
第15回	1月16日(土)	土面作り	140円	12月18日(金)
第16回	1月30日(土)	織り物作り	100円	1月6日(水)
第17回	2月6日(土)	折り紙雛作り	300円	1月19日(火)
第18回	2月20日(土)	土偶作り	180円	2月3日(水)
第19回	3月5日(土)	勾玉作り	220円	2月18日(木)

■応募 上記の受付開始日より、電話にて応募ください。
(大分市歴史資料館:097-549-0880)

テーマ展示解説講座

■内容 講座室でテーマ展示Ⅲ「中世豊後府内の職人たち」について、スライドなどで解説した後、展示会場を案内します。

■日時 2月14日(日) 14時～15時30分

■参加費 無料 ※事前の申し込みは必要ありません。

★上記の各講座等の参加者は観覧料が無料になります。

特別展プレイバック展示開催中

現在、大好評のうちに幕を閉じた平成27年度特別展「日本犬聞録ーイヌと人の歴史」のプレイバック展示を、学習室の一画で開催しています。ここでは、中世大友府内町跡から出土した戦国時代の犬形土製品や犬の骨を見ることができま。同時に会期中に開催した犬のゆるキャラグランプリの結果発表も行なっています。どのキャラクターが1位に輝いたのか、ぜひ資料館に足を運んで確認してみてください!



特別展プレイバック展示風景

グランプリに出場した
ぎぐるみどうちゃん

発行日:平成28年1月16日

発行:大分市歴史資料館 〒870-0864 大分市大字国分960-1 Tel097-549-0880 Fax097-549-5766

※大分市ホームページの「観光・魅力>歴史・文化財>歴史・文化を学ぶ>大分市歴史資料館」も併せてご覧ください。
(<http://www.city.oita.oita.jp/>)